

吉野輝雄

6月半ば、いろいろな色・形のスカシユリの花が目に入る。スカシユリは、交配によって比較的容易に新種を作り出すことができるという。でも、なぜ上向きに咲くのか疑問であった。

そこで改めてユリの種類と原産地について調べたところ、山ユリ、白ユリ、鬼ユリ、鹿の子ユリなど古くから良く知られている日本原産種の他に上向きに咲くイワユリ（佐渡など日本海側に咲く）を親に作り出されたユリのグループを一般にスカシユリと呼ぶことを学んだ。



ヤマユリ(山百合)



テッポウユリ(鉄砲百合) 白ユリ



オニユリ(鬼百合)



カノユリ(鹿の子百合)

なお、一昨年、「自粛(自由)広場から・近隣の自然の変化に目を向ける」シリーズ No.18 (2020)で、ユリを特集したので、こちらをご参照下さい。

多様なユリ(百合) 咲き誇る(1) http://sengawacx.com/LookNatureNo18a_2020.jpg

その2 http://sengawacx.com/LookNatureNo18b_2020.jpg

解説 No18 <http://sengawacx.com/FreeSpaceNature18.pdf>

3つのアルバムを並べて見ると、ユリの多様性と華やかさに注目させられる。

今号では、今年近隣で見たスカシユリとユリ科のキスゲ(黄菅)とワスレ草(忘れ草)を並べた。こうして見ると、ユリ(百合)は、日本の夏を代表する花の一つである事がよく分かる。 *Viva lilies!*